

涌泉寺 だより

「北は身延山、南は鷹取山、西は七面山、東は天子山也。枚を四枚つい立てたるが如し」

(秋元御書)

ここ数年不順な天候が続き、様々な災害が心配されます。

当山には七面宮があるのですが、雨の重みで折れたと思われる椎木が倒れてお社を傾かせてしまいました。これから修理をしないといけません。七面大明神について少し書かせていただきます。

伝承では、日蓮聖人が身延山でお説法をされている時に妙齢の美女が聞きにきました。他の信者さんたちが不審がるので日蓮聖人が「そなたの姿を皆が不審がつている、その本体を見せてやりなさい」と言われると、その女人は龍女に姿を変えました。すぐに美しいもとの姿に戻り「私は七面山に住む七面天女です。身延山の鬼門をおさえてお山を守る法華経の護法神として今かりそめの姿を現しました。人々が法華経を読み、題目を唱え、至心に私を祈るならば、心のやすら

ぎと満足を与えるでしょう。」と言って七面山の方へ飛び立っていきました。この時から法華信者の守護神として信仰されるようになったのです。

文頭のように日蓮聖人の残された文章にも、身延での生活状況を書かれた中で七面山の記載があります。平成二十一年七月には、当山でも団参で実際に七面山に登詣させていただきました。

当山の七面宮のものは日像上人が日輪の瀧、月輪の瀧と名付けた場所で都名所図会、天明六（一七八六）年にも載っています。この水を汲み、お曼荼羅を書かれた現在の松ヶ崎小学校にあった歓喜寺を妙泉寺と名付け、この地から京都の法華信仰が始まりました。改めて松ヶ崎の法華信仰の歴史を感じます。

これからお盆に入りますが、皆様にご先祖様を大切にされるように、私も七面宮の整備を宗祖、歴代上人へのご報恩と思いつつかりと取り組んで参ります。



七面宮裏側破損部分

七面宮お社破損

7月2日の夜に七面宮にお参りに行ったところ正面の障子が散乱しており、誰かにいたずらされたのかと思いましたが、よく確認してみると後ろに木が倒れかかっている様子でした。暗かったので次の日の朝再度確認すると、倒木のため全体的にお社が傾き、一部屋根が破損している状況でした。七面宮の裏山は京都市の管理地もありますので、境界の確認をするのと同じ時に、総代・堂講さんにも連絡をさせていただきました。原因が不明で倒壊の恐れもありましたので、不用意に触るべきではないと考え総代・堂講さんとも話し合い、一旦現状のままにさせていただきますました。その後境界を確認すると京都市の敷地から倒れていることが分かり、京都市に対応をお願いしました。なかなか京都市側に調査を行ってもらえず困りましたが、京都市が敷地境界を確認後倒木の撤去と屋根をブルーシートで覆ってくれています。今年の七面宮の年中行事までにどのようなになっているかが心配です。

今後は互いに見積りを出し双方で話し合いの上で賠償金を支払ってくれることになっています。現在当山も見積りを取り、またお社の建築年代を特定しようと調査しております。立正会さんや地元松ヶ崎の方、京都市文化財保護課の方や日蓮宗京都第一宗務所の紹介で戦国時代にお詳しい先生にもご協力を得られるよう、お願いしています。

古い場合は天正時代にまで遡る可能性もあります。「松ヶ崎百年史」に天正4年の勧請であると記載がありますが、根拠となる古文書等がなく、破損する前の状態も良くないので文化財としての価値は不明です。建物もそうですが、京都法華信仰が始まり京都が題目の巻となっていく最初の地で、とても歴史的に意味のある場所です。いまでも松ヶ崎には根強い法華信仰が残っており、それだけ因縁のある場所ではないかと思っております。京都日蓮宗の始まりの地としての意義が高められるものとなるよう努力して参ります。

九州団参



11月14日・15日で団体参拝を企画しております。一旦締め切りさせていたのですが、11月まで日がありますので、まだまだ、たくさんのご参加をお待ちしております。ご案内は4月頃に配布、管理費のお願いに同封させていただきます。寺院参拝は日蓮聖人銅像護持教会様の高さ10メートルもあり、国内第一位の青銅像の日蓮聖人銅像と、「西身延」と言われる鎮西・本佛寺様を予定しています。観光はNHKで放送された「花子とアン」のモデルとなった炭鋸王伊藤伝助邸、大宰府天満宮などです。皆様のご参加をお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願い致します。